

CASBEE広島における重点項目の環境配慮設計概要

Belles 祇園山本

CASBEE-広島 (2010年ver.1)

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

配 慮 項 目	評価点	重み係数	内 訳			
<b>■ 1. 「地球温暖化対策」の推進</b>						
<b>1.1 建物の熱負荷抑制</b>						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.10	Q1	室内環境	2	温熱環境
住宅性能評価における省エネルギー対策等級3の基準を満たす仕様とした。	3.0	0.42	Q1	室内環境	2.1	室温制御
	3.0	0.48	LR1	エネルギー	1	建物の熱負荷抑制
小計	3.0	0.37				
<b>1.2 自然エネルギーの利用</b>						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.50	LR1	エネルギー	2	自然エネルギー利用
	3.0	0.50	LR1	エネルギー	2.1	自然エネルギーの直接利用
					2.2	自然エネルギーの変換利用
小計	3.0	0.09				
<b>1.3 設備システムの高効率化</b>						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	4.9	1.00	LR1	エネルギー	3	設備システムの高効率化
設備システムの効率化を図る為、エコキュートを採用した。						
小計	4.9	0.18				
<b>1.4 設備システムの効率的運用</b>						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.03	LR1	エネルギー	4	効率的運用
	3.0	0.03	LR1	エネルギー	4.1	モニタリング
					4.2	運用管理体制
小計	3.0	0.03				
<b>1.5 資源・マテリアル対策</b>						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	4.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護
節水型の給水器具を採用した。	3.0	0.12	LR2	資源・マテリアル	1.1	節水
	3.0	0.09	LR2	資源・マテリアル	1.2	雨水利用・雑排水再利用
	2.0	0.06	LR2	資源・マテリアル	1.2	雨水利用・雑排水再利用
	3.0	0.19	LR2	資源・マテリアル	2.1	材料使用量の削減
	3.0	0.16	LR2	資源・マテリアル	2.2	既存建築躯体等の継続使用
	5.0	0.16	LR2	資源・マテリアル	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用
	2.0	0.04	LR2	資源・マテリアル	2.4	非再生性資源の使用量削減
	3.0	0.19	LR2	資源・マテリアル	2.5	持続可能な森林から産出された木材
小計	3.3	0.26				
<b>1.6 ライフサイクルCO2排出率</b>						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	4.9	1.00	LR3	敷地外環境	1	地球温暖化への配慮
可能な限りCO2の排出を削減する。						
小計	4.9	0.11				
<b>1. 「地球温暖化対策」の推進の評価</b>						
	3.6	0.72				
<b>■ 2. 「ヒートアイランド対策」の推進</b>						
<b>2.1 温熱環境の向上</b>						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	1.0	0.49	Q3	室外環境(敷地内)	1	生物環境の保全と創出
オール電化とすることで燃焼機器をなくし、大気汚染物質を排出しない。又、敷地内に来る限り植栽を施した。	3.0	0.24	Q3	室外環境(敷地内)	3	地域性・アメニティへの配慮
	2.0	0.27	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮
小計	1.8	0.96				
<b>2.2 交通負荷抑制</b>						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	4.0	1.00	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮
全住戸分の駐車台数の確保している。又、車入庫時の渋滞緩和の為、スペースを設けている。					2.3	地域インフラへの負荷抑制
小計	4.0	0.04				
<b>2. 「ヒートアイランド対策」の推進の評価</b>						
	1.9	0.15				
<b>■ 3. 「長寿命化対策」の推進</b>						
<b>3.1 耐用性の向上</b>						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	0.47	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性
コンクリート躯体の劣化については住宅性能評価の劣化対策等級3の基準を満たしている。	3.0	0.12	Q2	サービス性能	2.1	部品・部材の耐用年数
	5.0	0.09	Q2	サービス性能	2.2	部品・部材の耐用年数
	2.0	0.09	Q2	サービス性能	2.2	部品・部材の耐用年数
	3.0	0.04	Q2	サービス性能	2.2	部品・部材の耐用年数
	3.0	0.03	Q2	サービス性能	2.2	部品・部材の耐用年数
	3.0	0.06	Q2	サービス性能	2.2	部品・部材の耐用年数
	3.0	0.09	Q2	サービス性能	2.2	部品・部材の耐用年数
	小計	3.1	0.47			
<b>3.2 設備の更新性</b>						
(コメント) ※設計の計画段階に配慮した事項を記載してください。	3.0	0.17	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性
躯体に影響を及ぼさない範囲で設備のメンテナンス、更新が可能なレベルを確保する。	4.0	0.17	Q2	サービス性能	3.3	設備の更新性
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	3.3	設備の更新性
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	3.3	設備の更新性
	3.0	0.22	Q2	サービス性能	3.3	設備の更新性
	3.0	0.22	Q2	サービス性能	3.3	設備の更新性
	小計	3.2	0.53			
<b>3. 「長寿命化対策」の推進の平均点(上記2項目)</b>						
	3.1	0.13				
<b>■ 重点項目の総平均(上記3項目)</b>						
	3.3					